

2026年9月印刷の月 記念式典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



2026年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会を開催

日印産連表彰 印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が受賞

一般社団法人日本印刷産業連合会(大橋輝臣会長)は、2026年「9月印刷の月」記念式典を、9月9日(水)東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」に於いて、経済産業省をはじめとする各界のご来賓や会員10団体並びに関連業界から、約400名の出席者を迎えて開催した。

記念式典に先立ち、小説家 今村翔吾氏によって「印刷が支える本の未来を考える」をテーマとした講演会が行われた(別掲P7)。

長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対し顕彰する日印産連表彰では、印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が表彰、授与式が行われた。印刷功労賞を受賞した内藤正和氏が受賞者を代表して謝辞を述べた。

式典後は場所を移し懇親会を開催した。小林友也日印産連 副会長による開会の挨拶、乾杯のご発声はプレス&デジタルプリンティング機材協議会 山田周一郎会長が務めた。賑やかな談笑とともに会は進行し、印刷業界発展への親睦を深める場となった。中締めには会員10団体の会長が壇上に揃い、代表して全日本製本工業組合連合会 田中真文会長が中締めの挨拶を行い懇親会は終了した。

主催者代表あいさつ

記念式典は一同が起立、国歌斉唱によって開会した。

開催にあたり大橋会長が主催者を代表して挨拶を行った。

「本日は各界より多くのご来賓の皆様にご参加いただき、また、ご公務多忙のなか経済産業省 商務・サービスグループより寺本政策統括調整官をはじめ文化創造産業課の皆様にご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。あわせて会員10団体の皆様ならびに関連業界の皆様には、日頃より格別なご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年も皆様の多大なるお力添えのもと、9月印刷の月記念式典を“印刷の力で社会を支える”をテーマに開催できますことに心から感謝申し上げます。本日は、印刷産業の発展と印刷文化の昂揚に大きく貢献された方々に対して、日印産連表彰を行います。受賞者の皆様には心からお祝いを申し上げます。

先ほど行われました講演会では、今村翔吾先生にご登壇をいただき、「印刷が支える本の未来を考える」をテーマに、本という存在がこれからの社会にとって大きな価値と可能性を持っていることを力強くお話しいただきました。印刷に深く関わる



主催者を代表して挨拶する大橋輝臣会長

我々に大きなエールを送っていただいた講演だったかと思います。改めてこの式典が印刷産業の社会的役割を見つめ直し、未来への歩みを共有する機会となれば幸いです。

私たちは印刷産業が社会を支える

インフラとしての役割を持ち、顧客企業の変革を支え、地域経済を支える基盤産業であるという原点を改めて確認したいと考えています。日印産連は今後も様々な発信を通じて、社会の持続可能な成長を支える価値創造産業としての印刷産業の重要性を社会に示してまいります。これからも皆様の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます」と述べ、結びにご来賓の方々や会員10団体と関連業界の今後の発展と健勝を祈って挨拶とした。

来賓祝辞

壇上のご来賓紹介に続き、来賓を代表して経済産業省商務・サービス政策統括調整官の寺本恒昌氏から祝辞が述べられた。冒頭、熊本地震の被災者へのお悔やみを述べ復旧復興にむけた支援を行うとした。記念式典開催へのお祝いの言葉のあと「印刷産業は私たちの身の回りのあらゆる製品に関わっています。全国各地で地域の顧客ニーズに合わせて、多角的な事業展開を行われ、製造業やサービス業のサプライチェーンにおいても重要な位置を占め、国民生活を支える極めて重要な産業であると認識しています。そのなかで、日印産連は10団体・会員企業5719社とする印刷産業全体の東ね役として、紙の印刷に加えて、建材・電子部品、さらには映像やウェブサイトといったデジタルコンテンツの制作など、印刷技術をベースとした事業領域を拡大し、多岐にわたる関連産業の振興の要となっておられると認識しております。今後とも印刷産業の枠を超えた新しい価値の創出、印刷産業全体としての生産性向上、付加価値の創出にぜひ取り組んでいただき、日本経済の牽引役となっていただくことを強く期待しております。

日本経済は中東情勢の緊迫化やそれに伴う原材料価格・エネルギーコストの上昇など、依然として不確実性の高い状況です。一方で賃上げや国内投資が引き続き高い水準を維持しており、名目GDPも700兆円に至るような大きな変化の兆しも現れています。こうした流れをしっかりと捉えて、賃上げと投資が牽引する成長型の経済へ確実に転換していくためには、稼ぐ力の強化と賃上げの好循環の実現が重要であり、価格転嫁や取引適正化、そういった観点からの取り組みも一層求められていると思います。

日印産連においても取引適正化に関する実態調査を今年行っていただきました。調査の結果、価格協議や価格転嫁には進展が見られた一方で、十分な対価が支払われていない業務や無償対応の存在、転嫁されるべきコスト上昇分の未転嫁といった課題も明らかになっています。こうした課題に対し、適正取引の推進に向けた自主行動計画において、従来の商慣行の見直しに踏み込む改定など、賢明なアクションで対応いただいていると承知しています。印刷業界においては、同業社間での取引も多く、発注する側の企業の皆様にも自らの取引状況をご確認いただければと考えております。

来賓祝辞 寺本恒昌経済産業省
商務・サービス政策統括調整官

また、他業種との取引についても、私どもは価格転嫁を阻害する商慣行を有する業界をしっかりと特定し、取引適正化を呼びかけていく取り組みを進めたいと考えています。官公庁に関しても、今年7月に総務省と連携し全国の自治体に対して、印刷入札や契約についての適正化を求める通知文を配布しています。引き続き、物価高を乗り越え、強い経済をしっかりと実現していくために、価格転嫁・取引適正化の取り組みを皆様と一緒に進めてまいりたいと考えています。

全国各地に根ざして事業を展開されている印刷業界の皆様のご活躍なくして、日本経済の成長はないと思っています。今後も地域から日本を元気にしていただけることを強く期待します」と述べた。

2026 年度 日印産連表彰・授与式

「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」表彰が、プレゼンターの大橋会長から授与された。

■印刷功労賞

団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した方に対して授与される印刷功労賞には、10名（別掲p9～11）が表彰され、内藤プロセス株式会社 代表取締役 内藤正和氏が代表して表彰状を受け取った。

■印刷振興賞

業務の進歩改善に寄与された方、多年にわたり後進の指

導並びに業界の指導に貢献された方に贈られる印刷振興賞には、15名（別掲p12～14）が選ばれた。共同印刷株式会社 顧問の國府田徳明氏が代表して表彰状を受け取った。

■特別賞

特別賞は各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与された団体・個人等に贈られる。受賞した滋賀県印刷工業組合（別掲p15）は、「淡海（おうみ）のいろプロジェクト」を令和3年度に始動させ、地域の物語を紡ぐ特別な色として合計27色を選定した。地域の文化的価値に深く踏み込むことで付加価値向上を図ったことは、中小印刷業界の発展・振興に大きく貢献しているとして評価された。代表して理事長の中村寿志氏が壇上に上がった。

印刷功労賞



印刷功労賞受賞者の諸氏



印刷功労賞 代表 内藤正和氏

印刷振興賞



印刷振興賞受賞者の諸氏



印刷振興賞 代表 國府田徳明氏

特別賞



特別賞 滋賀県印刷工業組合



特別賞 中村寿志理事長

■受賞者代表謝辞

受賞者を代表して印刷功労賞を受賞した内藤正和氏が謝辞を述べた。

「印刷産業は出荷量が減少して下降線を帯びていると言われている今日ではありますが、まだまだ業界は健全に動いております。今年は年初からの



謝辞を述べる内藤正和氏

石油関連の滞りもあり、正直苦戦は強いられていましたが、現在は立ち直りの機運であります。

私はシルクスクリーン印刷の会社を起こして50数年経ちます。始めた当初、1970年代は第一次オイルショックで石油価格が高騰して、トイレトペーパーがないと大騒ぎをした時代であります。今年も価格高騰と物が出回らないと言って、国中が右往左往していました。時代は巡ると言いますが、「同じことが時を経て繰り返す」今年はそのように感じています。

昔よく言われた言葉があります。「継続は力なり」。起業当時の苦しい時代から山あり谷ありと50年を経てきました。長く続けることが大事、時代が変われば良いこともある—我が社はこの言葉を今でも思いつつ、現在も事業を維持し継続しております。

私がよく使う言葉は「街に出よう」。会社に閉じこもっているだけではなく、街に出れば仕事がたくさん溢れている。コンビニエンスストア、駅、書店、飲食店、家電製品、電子部品、タクシーに乗れば車内にデジタル広告、そしてデパートへ行けばあらゆるところでアナログ印刷、デジタル印刷とたくさん目の目にします。これらの既存製品を見ながら、新たな提案を試みて仕事をつなげていこう、こんな思いをいつも持っています。

私も印刷10団体もつながりを強固にしながら、さらなる向上を目指して印刷文化の発展に邁進していこうではありませんか。それが活気ある印刷業界につながっていくと考えています」と述べ、会場から祝福を込めた温かい拍手が送られた。

懇親会

記念式典が滞りなく終了したことが告げられ、懇親会は日印産連 小林知也副会長の開会の挨拶によってスタートした。「日本印刷産業連合会として、今年度は健全な商取引や環境政策による新しいビジネスの創出と基盤事業の見直しを重点項目として挙げております。これまで重ねてきた取り組みを見直し、時代の変化に合わせた取り組みをしていきたいと思っているところです。その中でも特に力を入れているのが、情報セキュリティの強化です。先日、日本フォーム印刷工業連合会で日本サイバー犯罪対策センターから講師を迎え、講演会を行ったところ、なんと3,000人ぐらいの情報セキュリティのスペシャリストがいて、何かあったらいつでも対応してくださるとのことでした。しかし、印刷業界内の技術などの詳細を共有するのは難しいので、まずは業界内の情報セキュリティに詳しい人たちとしっかり話をして対策をしてくださいとアドバイスをいただきました。これからも、我々はいろいろな人と協力してやっていけたらなと思っております。ぜひこの機会を有効に楽しんでいただければと思います」。

続いてプリプレス&デジタルプリンティング機材協議会の山田周一郎会長が乾杯のご発声を行った。「天災や海外の戦争や紛争が多々起こっていて、皆さんも経済的な影響を受けていると思います。そういう状況下で、これだけの業界の面々が揃われて、FACE TO FACEで情報交換であるとか今の状況についての認識を深められ、こうして業界としてひとつにまとまっていることは、非常に大事なことで感じています。印刷業界は、毎年々大きな変化が起こっていますが、一方でデジタ



開会にあたり挨拶する小林知也副会長



プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会 山田周一郎会長による乾杯のご発声

ル技術の発展であるとか、印刷物の新しい付加価値の創出に皆で挑戦していこうという動きもあり、印刷業界には新しい可能性が大きく広がっていると思っています。

今日ご参集の皆様が、この記念式典と懇親会を通じて交流し、これからの新しい発展に有意義な場となるよう祈念して、杯を挙げたいと思います」の言葉のあと、一同グラスを手に乾杯を唱和し、フロアいっぱいに賑やかな歓談が繰り広げられた。

会も終盤を迎え、日印産連会員10団体の会長が壇上に紹介され、中締めとなった。代表して全日本製本工業組合連合会 田中真文会長から「デジタル化が進み、紙離れが進む中、先ほどの今村先生の講演で“紙の印刷にはまだ十分価値はある”と伺って、大変心強く思った次第です。激変している世の中ですが、各社それぞれ個性を生かし業績を伸ばしていければと思います。

仕事上、皆さんは社長として、あるいは責任者、管理職としてストレスが溜まると思っていますが、実は仕事より皆さん一人ひとりの健康の方が大切だと思います。皆さんがご健康で、ますます社業に邁進し発展できるようご祈念いたします」と、息のあった三本締めで懇親会は終了した。



登壇した10団体代表の皆さま



全日本製本工業組合連合会
田中真文会長による中締め